



理事長挨拶

医療法人社団 芙蓉会 理事長 四ヶ所 大

今年、知人の紹介で入会した経営者向け研修会に参加したお蔭で、例年以上に新しい方々との出会いがありました。過去にも研修会、勉強会等に数多く参加して参りましたが、今回の研修会はコンセプトが独特で、毎回多くの刺激を受けております。主催者側のキャッチフレーズに「本物志向。本物と触れ合う事で経営者としての基軸、視野を拓けることが出来る」とあります。閉塞的な環境で物事を思考してしまうと、目先の事ばかりに気を取られてしまいます。多くの経験を積んだ講師の方々が、共通して話されていることは「失敗を恐れて何もしないことが一番愚かな策であり、仮に挑戦して失敗したとしても次のステップには役立つのだ」ということ。勿論、物事の度合いはありますが、このような経営者の方々の経験談を聞くたびに勇気づけられ、背中を押していただいています。

さて、当法人の最大の懸念事項である「介護療養病床の廃止問題」について、ここ数か月でかなり動きがありました。H30.3末で介護療養病床は廃止される予定で、病床の再編成が必須でありました。しかし最近の特別部会で、現状



のご利用者の状態に合わせた病床の整備として、重篤な身体疾患を有する者（医療ニーズの高い方＝療養機能強化型 A・B 相当）、容態は比較的安定した者（老人保健施設対象者）、医療の必要性は多様だが、容態は比較的安定した者（医療外付け＝特定施設等）を想定した再編案が発表されました。今後は、来年確定される報酬金額の数値を確認し、ご利用者像を想定しながら当法人としての方向性を見出していきたいと考えております。業界全体で地域包括ケアの確立という命題もございますが、法人として目先の事ばかり考えるのではなく、ここは、三方良しの精神「ご利用者良し、事業者良し、世間良し」で取り組む所存です。

「老人は国の宝」

医療法人社団 芙蓉会 (事業所一覧)



- ・ふよう病院
- ・芙蓉ミオ・ファミリア町田
- ・グループホームあおぞら
- ・デイサービスふれあいルーム
- ・千葉芙蓉病院
- ・きゃらの樹ケアセンター
- ・千葉芙蓉ハーモニー
- ・千葉芙蓉ステーション

アニマルセラピー

ふよう病院院長 佐藤 勉

ふよう病院に入職して 18 年目になりました。慢性期の病気を持つ当院の患者様達は、ADLが低く、毎日多くの時間を孤独で退屈、その上多少の不安を抱えながら生活しています。このような方々の心身の苦痛を最小限に減らし、QOLを高めるためにはどのような工夫をすればよいのか、私は常に考えてきました。

昨年の敬老会では、初めてアニマルセラピーを試みました。すると、車椅子に乗り、普段は無表情でほとんど発言のなかったある女性の患者様が、かわいい小型犬を目の前に差し出されて、固く拘縮した手を伸ばし、犬に触れ、微笑みながら「かわいい」とささやいてくれたのです。周囲の職員から「わー、すごい」と、感動の声があがりました。中には、泣く泣く自宅のペットと別れてご入院された方などもいらっしゃる、特に喜んでいただけたと思います。



しかし、生きている犬の利用は、費用面、衛生面、噛みつきなどの問題から回数が限定されることが問題となってきます。そこで、最近ではロボットアニマルセラピーというものも登場してきました。そのひとつが、最近かなり普及してきたアザラシ型ロボットの「パロ」で、「世

界一癒し効果があるロボット」としてギネスブックに登録されました。「パロ」の導入で、高齢者の血圧や脈拍が安定するといった効果が、認知症に対しては、徘徊、暴力、暴言などの周辺症状を抑制し抗精神病薬の減量効果が報告されています。

私も、以前「パロ」を紹介する研究会で実物に触れてみました。柔らかい感触の毛で、なでると声を出して甘え、名を呼ぶと瞬きをして首を振ったりします。チャームポイントはその鳴き声で、本物のアザラシの赤ちゃんの声を使っていますが、なんと人間の赤ちゃんの声にそっくりなのです。偶然、私の携帯電話に録音されていた生後 4 か月の孫の泣き声を聞かせると、あまりにそっくりで会社の人も驚いていました。

説明によると「パロ」は高齢者施設では女性に大変人気があり、男性の関心はいまひとつで長続きもしないとのこと。これはなぜでしょう。理由は、人の赤ちゃんの泣き声によく似た「パロ」の鳴き声は、女性にはるか昔に自分の子供や孫を抱いたころの懐かしい記憶を呼び起こさせるからではないでしょうか。

当院の患者様に少しでも楽しい時間をお持ちいただけるよう、今後も多方面から情報収集し、方策を考えてみたいと思っています。



千葉芙蓉会へお越しく下さい

事務長 佐藤 進

医療法人社団芙蓉会の運営する「千葉芙蓉病院」と老人保健施設「きゃらの樹ケアセンター」は、千葉県は房総半島の南部、清澄山系の麓、上総丘陵に位置しております。この地は、千葉県のチベットと称される程に雪が多く、年に数日は真っ白になります。また霧が多く、朝日に映えるその光景は、天空都市マチュ・ピチュ（老いた峰を意味するケチュア語）を彷彿させる絶景だと私は思っております。ただし私はマチュ・ピチュに行ったことがあるわけではありませんので、あくまでも想像なのですが。

上総は歴史的にもロマンの絶えない地域ですが、その代表として真っ先に思い浮かぶのが曲亭馬琴の「南総里見八犬伝」です。これは「仁・義・礼・智・忠・信・考・悌」の球を持つ八犬士が、房総の戦国大名・里見氏の危機を救うという、史実とフィクションの混在した物語ですが、里見氏は実在する大名で、その居城として有名なのが久留里城です。久留里城は、築城中多くの雨にたたられたという説から、別名「雨城」・「霧降城」とも呼ばれています。盆地のせい、霧の上にポツカリと天守が浮かぶ様は、まるで久留里城が霧を振りまいているような光景にも見えるようです。

かつては「久留里線」を巻き込んだ壮大な計画もありました。（木更津駅と上総亀山駅を結ぶ久留里線は、大正元年創業）これは、大正11年に発案され、外房線大原駅と内房線木更津駅を

結ぶ計画でしたが、残念ながら開通しないまま廃案となりました。木原線の「木」は内房線木更津の木、「原」は外房線大原駅の原で、木原線は、当初は外房線大原駅から大多喜駅迄開通しましたが、現在は「いすみ鉄道」と改名して上総中野駅まで営業しています。

近年では、皆さまご存知の「東京湾横断道路・アクアライン」開通のお陰で、都心から房総への移動時間は格段に短縮されました。開通してから早くも20年を迎えたアクアライン、開通当初の、通行料が高く閑散としていた面影はなく、現在、週末や祝日は多くの通行車両で賑わっております。そしてアクアライン開通後、南房総は高速道路の整備が進み、芙蓉会周辺も設立当初とは比べようがないほどに、交通の便が良くなりました。

さて、ロマンのぎっしり詰まったこの地に、初代会長は「高齢者は国の宝」と称して高齢者の楽園都市を築き上げようとお努力されました。その想いは、今の職員達にも引き継がれております。そんな高齢者の夢の国作りに、ぜひあなたも参加してみませんか。千葉芙蓉会でお待ちしています。



きゃらの樹ケアセンター屋上から臨む山々

院内職員研修会報告「医療安全について」 29年1月開催 発表者 医療安全委員会

<テーマ>

医療現場における報告制度を推進するためにはどうしたら良いか。

<内容>

- ①告を阻害する要因
報告する事に対する抵抗感
報告する事によって起こる自身への影響への不安感
報告作業の効果への不信感
報告作業の煩雑さ
- ②阻害要因に対する対策
報告者の匿名性の確保と保護
報告書の活用の徹底
報告作業の簡素化
- ③手対策の実施

<まとめ>

医療過誤は起こり得るものと考えシステム改革を進めて行く事が重要であると考えます。



院内職員研修会報告「接遇について」 29年2月開催 DVD 視聴

<内容>

終末期のケア～いのちを支える援助的コミュニケーション

1. 苦しんでいる人の理解者になること
2. 理解者になるための聴き方
(援助的コミュニケーション)
3. 苦しみの中でも穏やかに生きられるのはなぜか
4. 苦しみと向き合うことは

<視聴後の感想>

- * 実例を見て具体的にどのように接したら良いのかがよくわかった。
- * 反復して聴く事の大切さ重要性がわかった。
- * 反復は介護だけでなく普段の生活の中でも活用できると思った。人に優しい人になりたい。



29年1月院内職員研修会報告「認知症について」

<テーマ>

認知症という状態にある人の理解と生活支援

<内容>

医療従事者は物事を能率よく手早く済ませようとし、せかしてしまうことがあります。時には患者様ができる事も代わりに手を貸してしまいがちですが、それは、患者様の自尊心や羞恥心を傷つけたり、否定したりすることにもつながります。

患者のペースに『合わせ』

患者のもっている力を『生かし』

患者ができないところを『補い』

もう少しできそうなところを『励まし』

患者がしようとしていることを『支える』

(和田行男「大逆転の痴呆ケア」より)

<まとめ>

ゆっくりと向き合ったり話したり、見守り、肯定的な態度を心がけたりする職員の優しさが大切だと思います。医師、看護・介護職員だけでなく、事務職員も検査技師も薬剤師も栄養士も、患者様にかかわるすべての職員がそれを理解しようとする姿勢が必要なのです。



千葉芙蓉病院 イベント報告

節分

2月3日、節分会の行事を行いました。鬼役の職員と、歳女の職員とがそれぞれ仮装し、各病室をまわります。「鬼は外、福は内」の掛け声



に合わせて、豆まきをしました。患者様は、笑顔いっぱい、豆まきをなさっていました。思い出の写真が、また一枚増えましたね。



きゃらの樹ケアセンター イベント報告

豆まき

2月3日、老健では「豆まき」を行いました。今年の「鬼いちゃん」達は若手にお願いしたせいか、ややチャライ感じの仕上がりでした。ご利用者様はというと、投げるより食べる方が集中できるようです。



その日のおやつには、「あずき入り蒸しパン」を召し上がっていただきました。種類が若干違いますが、豆つながりという事で、とにかく皆様に喜んでいただけたようですので、また来年もがんばります。



書初め

1月に入り、3回にわたって書初めを楽しんでいただきました。もうずいぶん長いこと毛筆など使っていないはずなのに、皆様すばらしい筆の運び。まさに年季が入った作品に驚かされ

ます。書道の指導ボランティアさんを募集していますが、実は場を設けるだけで先生など必要ないのかもしれないかもしれません。



医療法人社団芙蓉会 きゃらの樹ケアセンター



見学随時受付中

〒292-0503 千葉県君津市広岡 375-3
TEL 0439-50-7333 FAX 0439-50-7399